

目 次

序 文

凡 例

総 説

第一節 諏訪氏の国……………三

第二節 地域と戸口……………八

第三節 諏訪湖……………七

第四節 農漁工商……………二〇

第五節 文化ほか……………二六

第六節 観光の町……………三〇

第二節 高島県・筑摩県の成立……………四三
廃藩置県と高島県 筑摩県の成立 戸籍と区制の成立

第三節 債祿制の改革と秩祿处分……………四八
債祿制の改革 秩祿处分と士族授産 新簡足軽の復籍復祿問題

第四節 地租改正……………五五

明治初期の村財政 地租改正の施行

第五節 徵兵制……………六一

徵兵令と兵制の改革 高島城破却

第六節 治 安……………六三

明治初年の警察 消防

第一編 政 治

第一章 明治維新と諏訪……………三五

第一節 版籍奉還と諸改革……………三五

幕末の諏訪 藩治体制の改革 版籍奉還 めまぐるしい変革

第二章 地方自治の発達

第一節 地方自治の成立—長野県の成立—……………五五

大区小区制の実施 下問会議と区内会議 新しい村の成立 筑摩県から長野県 地方三新法の公布 町村制公布 上諏訪村の町制施行 郡会議員の選

舉

目 次

第二節 自由民権運動と国会開設	八二	選挙法実施 三・一五事件と四・一六事件 無産 政黨の再編成 新興教育運動と二・四事件 政黨	
員の選舉		の変貌	
第三節 日清・日露戦争	九一	第五章 戰時体制下の町村	三六
兵制の強化 日清・日露の戦争		第一節 国民精神総動員	三七
第四節 稅制の変遷	九六	日中戦争と国民精神総動員 在郷軍人分会と軍友 会 銃後奉公会 防護団と警防団 满州分村と青 少年義勇軍	
地方税 町村税 県税戸数割と町村付加税			
第五節 警察司法制度の発達	一〇一	第二節 大政翼賛運動	三八
警察制度の発達 裁判所の開設		大政翼賛会 諸団体の翼賛体制化 戰争の長期化と 税制の改正	
第三章 大正期の民主化運動	一五五	第三節 講訪市の発足	三九
第一節 町村制施行後の諏訪	一五五	講訪市の誕生 講訪市政 市會議員選挙 太平洋 戦争下の市政	
新町村制の得失 町政の推移			
第二節 自治の拡大と社会運動	一七〇	第六章 民主政治の発展と諏訪市政	四〇
護憲運動と自治の拡大 普通選挙運動 郡制の廃止		第一節 敗戦と諏訪市政	四一
止 社会主義団体の結成		敗戦と市民の反応 戰時体制の解体 戰後の混亂 期と市政 食糧対策	
第四章 昭和恐慌と町村政	一三三	第二節 民主政治の発展と諏訪市政	四二
第一節 昭和恐慌期の町村政		民主市政の発足 講訪市消防署 教育委員会 自 治警察 政党の復活と政党活動	
恐慌と町村財政 町村財政の問題点 恐慌対策事 業 满州事変と勅令区会の廢止	一三三		
第二節 政党と政治運動	一九		
政治研究会と農民労働党 既成政党の動向 普通			
	一九		

第三節 市域の拡大と諏訪市政……………

開拓地農業の確立 農業生産の向上と多角化 農

市政の拡大 市長・市会議員の選挙 市役所機構 の整備 茅野市との境界問題 諏訪市の財政

一五

第四節 高度経済成長下の諏訪市政……………

一五六

市長・市議選 新市庁舎・行政機構の整備 新産
都市建設 郡市合併問題と広域行政 住民運動

第六節 養蚕業の発展とその稚移……………

三三

第二編 産業経済

第七節 水利……………

三四

第一章 農業……………

一五

第一節 明治前期の農業 生産技術の進歩

一五

第二節 明治後期の農業

一五

地租改正と土地所有 生産技術の進歩

一五

農村生活の疲弊と産業奨励 米作技術の発展 農

一五

民の階層分化と農業団体 低湿地帯の農業 霧ヶ

一五

第三章 林野……………

二五

第三節 昭和恐慌期の農業

一九

第四節 戦時体制下の農業

一九

第五節 戰後の農業 食糧の危機

一九

第六節 終戦直後の食糧政策 農地改革とその後の変革

一九

業共同組合とその活動

三三

第七節 養蚕業の発展とその稚移……………

三三

明治初期の養蚕業 明治中期の養蚕業 明治後期 の養蚕業 大正期の養蚕業 昭和初期の養蚕業

三三

第八節 治水……………

三三

第九節 治水……………

三三

第十節 治水……………

三三

第十一節 治水……………

三三

第十二節 治水……………

三三

第十三節 治水……………

三三

第十四節 治水……………

三三

第十五節 治水……………

三三

第十六節 治水……………

三三

第十七節 治水……………

三三

第十八節 治水……………

三三

第十九節 治水……………

三三

第二十節 治水……………

三三

第二十一節 治水……………

三三

第二十二節 治水……………

三三

目 次

第三節 山林經營.....	三一	第五章 鉱業と動力.....	三一
林業政策 總行造林 諏訪市有林		第一節 鉄平石.....	三一
第三章 漁業.....	三〇六	第二節 鉄平石の採掘と輸送	三一
第一節 明治時代の漁業.....	三〇六	第二節 天然ガス.....	三三
三浜漁業から自由漁業へ 諏訪湖漁業組合の誕生		天然ガスの利用	三三
第二節 大正・昭和の漁業.....	三六二	第三節 動力.....	三六
漁業組合の発展 戰時中の漁業		動力の推移	三六
第三節 戰後の漁業.....	三六六	第六章 工業.....	三六
戰後混亂期の漁業 諏訪湖漁業協同組合 養殖漁業の發展 漁獲高の変遷 共同販売事業 漁業者		第一節 酿造業.....	三六
数 水産指導所の役割 諏訪湖の汚染と漁業		酒造業 味噌醸造業 醬油醸造業	三六
第四節 漁法.....	三五五	第二節 機械金属工業.....	三六
諏訪湖の主な漁法		第二次世界大戦と機械金属工業 大戦後の機械金属工業	三六
第四章 製糸業.....	二九九	第三節 冬の特殊産業.....	三五六
第一節 機械製糸業の發展.....	二九九	寒天製造業 凍豆腐製造業 氷餅製造業 天然採水業	三五六
明治初年の製糸業 その他の製糸工場		第四節 その他の工業.....	三五三
第二節 組合製糸の成立と發展.....	三三三	諏訪小倉・諏訪平 鋸製造業 漆器 石鹼製造メリヤス工業	三五三
組合製糸發生			
第三節 戰中戦後の製糸業.....	三七		
企業合同と竜上社 諏訪市製糸協同組合			
第七章 商業.....			
第一節 明治初期の商業.....	三七		

城下町商業の名残 初期の商業

第二節 上諏訪開駅の前後 一七〇

新商業への移行 商工会の創立

三七一

第三節 大正・昭和恐慌期の商業 一七一

中央大商店進出と不況対策 商店の移動 第一次

三七二

世界大戦前の商業

経済統制と配給制 企業整備と転廃業

三七三

第四節 第二次世界大戦下の商業 一七四

第五節 第二次世界大戦後の発展 一七五

三七六

第六節 商業の自由化 商業の近代化 市の商業対策 商

三七七

工會議所の活動

第八章 金融業 一七八

三七八

第一節 明治初年の金融 一七九

三七九

明治新政府の貨幣政策 小野組と田中組ほか 国

三八〇

立銀行及び私立銀行 銀行類似会社及び開産社

三八一

共救社 郵便貯金

第二節 近代的金融機関への発展 一八二

三八二

製糸業の発展と銀行 大正期の銀行合併 産業組

三八三

合の設立と農村金融

三八四

第三節 昭和恐慌期の金融 一八五

三八五

大銀行による系列化と八十二銀行の誕生 恐慌下

三八六

の庶民金融

三八七

第四節 戰時及び戦後の金融 一八八

戰時下的金融 戰後の金融 農業協同組合の金融

三八九

民間の金融

第三編 交通運輸と通信

第一章 交通運輸 一九〇

三九一

第一節 道路 一九一

三九二

明治期の道路 大正期の道路 昭和期の道路

三九三

第二節 いろいろの乗物 一九四

三九四

交通の変革

三九五

第三節 乗合自動車 一九六

三九六

自動車の交通

三九七

第四節 鉄道 一九七

三九八

中央線の開通 中央線の電化 鉄道踏切・駅西口

三九九

その他 私設鉄道計画

四〇〇

第五節 陸上運輸 一九八

四〇一

陸運の変革

四〇二

第六節 湖上の交通運輸 一九九

四〇三

小和田の舟止 湖上の定期船

四〇四

第二章 通信 二〇〇

四〇五

第一編 郵便	第二節 終末処理事業	四五
高島郵便取扱所 上諏訪郵便局 諏訪郵便局	屎尿処理事業 廃棄物収集処理事業 下水道 火葬場	四九
第二編 電信電話	第三章 社会保障	五七
電信 電話	第一節 社会福祉	五六
第四編 福祉厚生	生活保護 福祉事務所 民生委員 社会福祉協議会 児童福祉 長野県保育専門学院 身心障害者の福祉 老人福祉 戰傷・戰没・未帰還者遺族等の援護	五九
第一章 保健衛生と醫療	第二節 社会保険	五三
第二節 明治前期	国民健康保険 国民年金	五〇
第三節 大正期の保健衛生	第三節 住宅・失業対策	五三
伝染病 衛生組合 病院移築	住宅 失業対策	五三
第四節 流感と肺結核 衛生行政	第四節 昭和初期の保健衛生	五八
第五節 戰後の保健衛生	第五節 宗教	五〇
医療施設の充実	第一章 神社	五九
第二章 環境衛生	第一節 維新と社寺	五九
第一節 上水道	諏訪上社内社寺の対立	五九
飲料水	第二節 維新後の神社	五九
	神社制度の改正	五九

第三節 神社崇敬と諏訪神社の昇格…………… 廿三
　　戦争と神社 第二次世界大戦下の神社

第六編 教育文化

第四節 第二次大戦後の神社…………… 廿九
　　宗教法人法

第一章 学校教育…………… 廿三
　　第一節 明治初期…………… 廿三
　　　　学制頒布以前 学制頒布と小学校の設立

第二節 明治中期…………… 廿三
　　　　教育制度の改変 中学校と女学校の創設その他

第三節 明治後期…………… 廿三
　　　　国定教科書と義務教育の年限延長 教科目と教科

第四節 大正・昭和前期の教育…………… 廿三
　　　　細目 諏訪連合小学校運動会

第五節 戦後の教育…………… 廿三
　　　　教育の普及と戦時下の教育 諏訪地方における各種の教育

第六節 村々の神社…………… 廿一
　　教派神道

第五節 村々の神社…………… 廿一
　　教派神道

第六節 その他の神道…………… 廿九
　　教派神道

第二章 仏教…………… 廿三
　　第一節 維新と寺…………… 廿三
　　　　神仏分離と市内の寺院

第二節 僧侶の活動…………… 廿七
　　諏訪福田会 大戦下の寺院 戰後の佛教界

第三章 キリスト教…………… 廿五
　　第一節 プロテスタンント教会…………… 廿五
　　　　キリスト教解禁と諏訪

第二節 カトリック教会…………… 廿九
　　　　諏訪市カトリック

第二節 社会教育…………… 廿九
　　　　明治にできた団体 戰後の団体

第二節 社会教育の施設と活動…………… 廿九
　　　　諏訪市美術館 平林たい子記念館 諏訪

目 次

市公民館 諏訪市民センター 成人学校と文化祭

姉妹都市との交流

第三章 学芸.....
六六

第一節 明治期の学芸.....
六六

明治前期の学問と俳諧 俳句と短歌

六六
六六

第二節 大正・昭和初期の学芸.....
六九

地方史学・地理学・天文学の勃興 短歌・俳句の

諏訪の文学 郷土の演劇活動 同好の人々による

研究会活動

第三節 戰後文芸の動向.....
七三

戦後における文芸の諸活動

七三

第四章 スポーツ・娯楽.....
七六

第一節 スポーツ.....
七六

各種のスポーツ スポーツ団体

七六
七三

第二節 娯楽.....
七三

明治以前からあつた娯楽 明治以後入ってきた娯

七三

樂

第五章 報道.....
七八

第一節 新聞.....
七八

明治初期の新聞 南信日日新聞と信陽新聞

新聞

の統合 戰後の新聞復活 現在の新聞

第二節 ラジオ・テレビ.....
七八

ラジオ テレビ

第七編 観光

第一章 温泉と湖と高原.....
七八

第一節 温泉.....
七八

上諏訪温泉の研究経過 上諏訪温泉の利用 村部

の温泉

第二節 湖.....
七八

諏訪湖 いろいろな施設

第三節 高原.....
七八

霧ヶ峰 霧ヶ峰の交通 西山

第二章 史蹟名勝.....
七八

第一節 高島城・高島公園.....
七八

日根野高吉と高島城

第二節 社寺と山城.....
七八

長い歴史

第八編 民俗

第一章 生活	七八
第一節 住居	七八
屋敷 母屋	七八
第二節 服飾	七八
衣服	七八
第三節 食習	七八
主食 副食 間食	七八
第二章 族制と通過儀礼	九一
第一節 族制	九一
家族の称呼 同族	九一
第二節 婚姻	九三
婚姻の成立 結婚式 結婚式後の行事 仮祝言 逆縁婚など 婚姻と俗信	九三
第三節 産育	九七
節分 初午 こと八日と針供養 桃の節句 彼岸 懷妊 出産 誕生日まで 出産の異常・墮胎・間 引	九七
第四節 年齢の祝	一〇三

第五節 帰結の祝 七つ坊主 十三の祝 若い衆の仲間入り
 厄払い 還暦の祝・喜の祝・米の祝
 葬送

死亡 同令感覺 仏様と通夜 納棺 村中への知
らせ 香華料 読経 出棺 穴廻りと埋葬 仮埋
葬 野帰り 四十九日までの法事 年忌の法事

第三章 年中行事	八六
第一節 年中行事	八六

門松・煤掃き・冬至 新御魂 餅つきと鏡餅 松
餅りと注連飾り 年棚 幕勘定 オミタマ 年と
り おかげり

第二節 正月の行事	八六
-----------	----

大正月 蟹の年取り 七草 お供え開きとお藏開
き ホンダレサマ 若餅つき イネノハナ 弓矢
箸・粥搔棒 万物作 年取り ドンドヤキ 餅粥
鳥追い お賽日と墓参り 山の神の日 宵恵比寿
二十日正月・晦日正月

第三節 春夏の行事	八六
-----------	----

節分 初午 こと八日と針供養 桃の節句 彼岸
天神講 花祭り 八十八夜 菖蒲の節句 苗代作
りと水口祭 田植えと農休み 両社参り 虫祭り
津島様

目 次

第四節 盆の行事.....

八二

高燈籠 墓掃除 七夕 お施餓鬼 御魂迎え お

盆花取り 盆棚 新盆の義理 迎え火と棚経 盆

送り お賽日と墓参り 送り火 厄払い 盆踊り

第五節 秋の行事.....

八三

御射山祭 八朔 風祭り 十五夜 彼岸 十三夜

稻刈りとカマアゲ 十日夜 恵比寿講 二十三夜

コバシアゲ 秋祭り こと八日

資料	目次	八一
年表	一〇三	一〇四
索引	一〇六	一〇七
あとがき	一〇八	一〇九

題字 諏訪市長 岩本節治